

韓国農林畜産食品部プレスリリース 2021年10月6日15時46分

江原道麟蹄郡所在の豚農場でアフリカ豚熱 (ASF) 発生

<https://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGbWFmcmEIMkY2OCUyRjMyODMwNyUyRmFydGNsVmll dy5kbyUzRg%3D%3D>

□アフリカ豚熱中央事故収拾本部（本部長：キム・ヒョンス農林畜産食品部長官、以下「本部」という。）は10月5日、江原道麟蹄郡（カンウォン道・インジェ郡）にある豚農場*（約550頭飼育）でアフリカ豚熱が発生したと発表した。

* 農場周辺の防疫帯（10km）内に豚農場なし

○今回の発生農場は、アフリカ豚熱に対すると畜場出荷前検査の結果、本日（10.6）確定診断された。

* 2020.11月以降、農場周辺10km内でのイノシシの陽性検出は23件、農場近くの700m地点からもイノシシの陽性例が検出（'21.3.29）。

○本部は、発生農場飼育豚の殺処分・立ち入り禁止、周辺地域への集中消毒など緊急防疫措置を実施している。

□キム・ヒョンス本部長は江原道麟蹄郡所在の養豚農場でアフリカ豚熱が発生したことを受け、10月6日に緊急状況点検会議を開催した。

□本部はアフリカ豚コレラの拡散防止のため、次の防疫措置を徹底することを強調した。

○第一に、発生農場と車両の出入りにより疫学関連のある農場に対しては移動制限と消毒など防疫措置を徹底し、水平伝播を遮断

○第二に、発生農場の殺処分に動員された車両・人に対する防疫管理とともに、残存物に対しては入念に消毒などの措置

○第三に、発生農場隣接道路に対する集中消毒および近隣の市・郡の豚農場に対するアフリカ豚熱精密検査実施

□本部は「最近農耕地周辺まで下りてくる野生イノシシと営農活動によって汚染源が養豚農場内部に流入する可能性があるため、養豚農家は豚畜舎の外と農場の外がウイルスで汚染されているという警戒心を持ち、遮断防疫を強化すべきだ」と強調した。

○今回の発生農家も母豚で発生しただけに、「母豚舎管理のため、畜舎の出入り前に、前室で手の消毒・長靴の履き替えなど基本的な防疫規則を徹底すること」を要請した。